

VX-6

VXシリーズ3機種の特徴を
ピックアップ

高機能防水性に優れやさしい操作性

VX-7は屋外のラフな運用に耐える堅牢性と防水性を備えたハンディ機だが、VX-6はそのVX-7の機能と性能はそのままに、やさしく簡単な操作と都会派のデザインを追及した144/430MHz FMデュアルバンド・ハンディ機といえるだろう。

手袋などをしている状態でも操作がしやすいよう、深い溝を施した大型つまみで音量などの微調節もスムーズ。

また、キーボードの間隔もVX-7より広めに配置されているので、となりのキーと一緒に押してしまう心配も解消されている。

PTTスイッチやモニタ・スイッチも、コンパクトながらもすぐに判別できるように配置されている。

144/430MHz帯のいずれのアマチュアバンドでも、最大約5Wの送信出力(付属のリチウム・イオン・バッテリーFNB-80LI使用時)やワイドバンド受信や低消費電力設計、さらに防水構造はVX-7と同等だ。

VX-6はポリカーボネイト樹脂とアルミ・ダイキャストによる堅牢な構造をゴム・パッキンによって防水シールド。MIC/SP端子は、ねじ込み式のふたとなっており、強固な防水が施されている。落下や浸水の心配があるフィールド運用も安心の設計だ。

専用の防水形マイクCMP640A(オプション)や気圧センサ・ユニットSU-1も装着でき、多機能なデュアルバンド・ハンディとして仕上げられている。



VX-7の各機能を引き継ぎながらも、やさしいデザインに仕上げられているのがVX-6の特徴



防水機能はVX-7と同等で、アマチュア無線機としては他に例を見ない



メモリ・バンクやDMRで受信機能がさらに便利に

VX-6は144/430MHz帯のアマチュア・バンドの送受信に加えて、504kHz～998.99MHzのワイドバンドの受信が可能だ(一部周波数を除く)。

ワイドバンド受信の周波数は、12バンドに分割しBANDキーで切り替えることができるとともに、より簡単に使いやすくするために、ラジオやテレビ放送の音声、各種無線専用のメモリとしてスペシャル・バンクが用意されている。

メモリは大容量900チャンネルが用意されており、さらにジャンル別に分類してバンク・タグ(ジャンル名も記憶可能)によるメモリの管理ができる24個のメモリ・バンク機能が搭載されている。

各メモリ・チャンネルは複数のバンクに重複して登録することが可能で、一つのバンクに最大100チャンネルまでメモリできているので、アマチュア無線、放送局、業務局など使用目的ごとにメモリ局を振り分けて整理することが可能だ。

また、ダイレクト・メモリ・リコール(DMR)機能が用意され、フロント・パネルに用意されたDMRキーで表のような10個の周波数を瞬時に呼び出すことができる。また、この10個の周波数はユーザーが任意の周波数に書き換えることもでき、自分に必要な周波数やよく使うバンドを登録して使うことができる。



ダイレクト・メモリ・リコール(DMR)にはよく使うアマチュア無線の周波数、放送局など項目ごとにまとめてメモリができる

DMRチャンネル	初期設定周波数
1	144.80MHz
2	145.00MHz
3	145.50MHz
4	433.00MHz
5	433.50MHz
6	439.00MHz
7	540kHz
8	7.00MHz
9	76MHz
0	120.00MHz

DMRの初期設定周波数

VX-6



EAI…エマージェンシー機能

EAI(Emergency Automatic ID)機能は、コードを統一しておくだけで、万が一の場合に1台のVX-6が送信した信号を受信したもう1台が、自動的にピープ音を間欠送信する機能だ。

仲間との登山やドライブのとき、お互いのEAI機能が動作すれば、仲間に緊急を知らせることができ、後の探索などに有効に使うことができる。

なお、EAI機能は所在地を伝えるための補助機能であり、電波の届かないところやEAI機能がONになっていない場合やスケルチがオープンになっている場合には使用ができない。

また、一方の無線機にEAI機能が搭載されていない場合は、この機能の使用

はできないので、お互いのVX-6の設定をあらかじめ確認して使用しなければならない。

EAI動作と連動させると効果的な機能として、CW ID送出機能がある。CW IDはアルファベット、数字0-9、スペース、+、-、?の文字、記号のうち16文字を登録することができ、自局のコールサインや簡単なメッセージをFMモードで送り出せる。

なお、CW ID機能を使う場合は、第3級アマチュア無線技士以上の資格と無線局免許状にF2Aの指定が必要となる。したがって第4級アマチュア無線技士の資格の方は、CW ID機能はOFFにしておく。



EAI機能を使うには、2台のVX-6のEAI機能をONにしておかなければならない



CW ID送信機能を使うと、自分で設定した16文字のメッセージを自動送信できる



CW受信トレーニング機能

VX-6には、ランダムなモールス符号をスピーカから発生させる、CW受信トレーニング機能が搭載されている。CWランダム機能動作時には、スピーカからのCW符号音発生に加えて、CW音に合わせてTX/BUSYインジケータが白色に点滅し、ディスプレイにはモールス符号が表示される。発生符号は、アルファベット、カナ(和文)、数字に対応している。

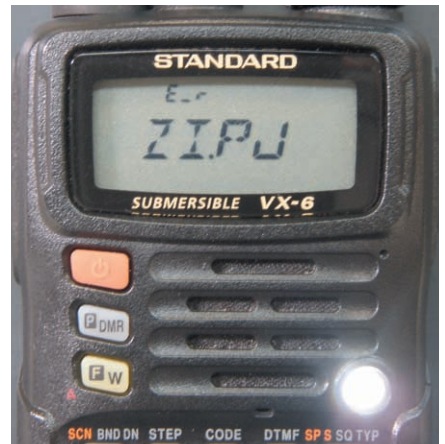
符号の送出スピードは、20～200CPMと4～40WPMの2種類に切り替えることができる。

また、CW符号の送出パターンもアルファベット、アルファベット+数字、カナなど8種類から選べるようになっているので、単調にならない受信練習ができるように工夫されている。

VX-6はCWトレーニング機能が動作中でも、受信動作を行っているので、ラグチュウの待機時間の合間などちょっとした時間にCWトレーニング機能を動作させて上級資格にチャレンジし、ローカル局に差をつけてしまおう。

第2級アマチュア無線技士以上を新たに受験する場合に必要な音響によるモールス符号受信スピードは25CPM相当なので、このスピードで練習して、上げに30～35CPMでも書き取れるようになれば、合格間違いなしだ。

参考
CPM..... Character Per Minutes .1分間に送出される文字数のめやす .20CPMならば1分間に20文字を送るスピードを表す。
WPM..... Word Per Minutes .1分間に送出する単語数のめやす .1単語を5文字として算出するのが一般的 .20WPMならば1分間に20単語を送るスピード(相当速い!)。



スピーカから送出された符号はディスプレイにも表示される .ストロボ・ライトも符号に合わせて点滅する